

世界の若者の笑顔に触れる

嘉屋栄子

記録的な猛暑が続いた今年の山口の地では、世界の若者の笑顔に触れる四年に一度の国際大会「世界スカウトジャンボリー」が開催され、百五十二の国から三万四千人が、主会場の阿知須のきらら浜に集い、開会式が行われました。村岡嗣政山口県知事は「学校や地域が一体となり、おもてなしの



準備をしてきました。県のファンになってもらえるかと確信していません」と挨拶され、日本代表の高校生は「身体を強くし、心を健やかに徳を養う」と誓いました。安倍川下中学校で行われた、世界から日本にやってきたスカウトたちとの交流会

首相は「自然や豊かな文化、歴史がある山口・日本を楽しんで」と挨拶されて開幕しました。最大のイベントショーでは皇太子様が出席され、英語で大会のテーマ「和」について、お言葉を述べられ、「会場に満ちる友情や理想、信念がやがて世界を良くしていくでしょう。どうぞ、しっかりと学んでください。」と呼び掛けられました。

「やまぐちジャンボリーフェスタに参加しよう!」「県民の皆さんと世界の若者たちとの交流の場を創出すると同時に、山口県の魅力を世界に発信しよう!」のうたい文句に年甲斐もなく、ワクワクしての参加でした。

期間中、スカウト達は野外生活などを通して、様々な文化交流を深め、学び合ったり、今年、被爆七十年を迎えた広島市を全員が訪れるピースプログラムや、山口県内での地域プログラム等多彩な活動をしました。

私達が訪れた初日には、主会場のきらら博記念公園で世界の若者の様々な体験活動が始まり、市町企業による特設ブースや、県の魅力を発信する国際交流ゾーンも開設されました。

私達、町おこし団体「じゃげな会」は交流ゾーン岩国市のブースで早速、郷土料理「岩国寿司」の実演を行い、岩国伝統食文化の魅力を紹介しました。すると声高に「スシスシスシ」

と大人気で、世界のスカウトの皆さんに和食の文化をより身近に実感していただく出逢いの場となりました。

また、汗をかきながらのなれない英会話にも世界の皆さんから温かい言葉を頂戴し、私達の夢をつなぐことにもなり、沢山の笑顔に触れた最高の文化交流となりました。

地域プログラムでは岩国市にも各国のスカウトが訪れ、住民との交流や市内の小・中学校、高校を訪問し、児童や生徒の様々な交流が行われました。川下中学校に、オーストラリア、バングラディッシュ、フィンランド、メキシコ、スイスのスカウト達が訪れ、日本の

伝統文化武道や折り紙、お手玉など遊びを通しての交流活動など、三年生を中心に、それぞれの部門に分かれ、身振り手振りの英会話でお互いに楽しみながらの貴重な体験であったと思います。

また、スカウトの皆さんの滞在中のエピソードや日本の印象について「日本は食・文化・人全て素晴らしい!」「山口の人は心温かく優しく接してくださった」など最高の出逢いでしたと語ってくださいました。礼儀正しく、豊かな語学と志高い世界のスカウトの姿に感動しました。

文化には国境を越えて生まれた人間と人間の交流があります。お互いに興味を持ち、相手に自分の

時間を捧げ、苦労を惜しまず、心開いて交流することが国際貢献になるのではないのでしょうか。国際交流の素晴らしさを改めて学ぶことが出来ました。

世界スカウトジャンボリーの交流を通して沢山の異文化理解や自国の文化理解を深めること、さらにグローバルコミュニケーションに必要とされる資質について考えたり、外国の文化を学ぶだけでなく、自身が自国の文化を広めることへに関心を高めたりして将来への夢を膨らます出逢いであったと思います。

世界の若者の皆さんの笑顔に合えて夢や元気を頂いた、暑い夏の熱い宝物に感謝します。

地方創生に思いつくと

三家本のり子

「ワサビが不足している」と伝えるテレビ番組にふと目を留めました。海外のワサビ人気に日本では生産が追いつかない現状の中、英国では自国生産を開始したというのです。

さて、なぜワサビが気になったかといえば、私の出身地の錦町宇佐では何軒かワサビを生産出荷をされている、幼いころは我が家にも当たり前のようにワサビがあり、身近な物だったからです。

最近では我が家の自家製ワサビもなくなりましたが、毎年お盆に

は地元のTさんから大きなワサビをいただくのが常でしたので、今年もそう思っていたらありました。

「あれ、ワサビは?」「おじさんもう年じゃから、やめちゃったんですよ」

息子さんは大手企業にお勤めで後を継ぐ方ではありません。世界は寿司ブームでワサビも大人気。日本にとってチャンスのはずなのに、作る人はどんどん減っていく。だからといって、今の仕事を捨て、「私が作ります」と手

を挙げる心意気もありません。

地方創生と言われる今、こうしたチャンスを生かせる地域のシステムはできないものだろうか、もしかしてこの原稿を読まれたのかなが、何かひらめいてくださらないかな...と、勝手な期待も込めて今回書かせていただきました。

日本で失われつつあった盆栽が西欧で人気になると、たちまち中国から大量に盆栽が輸出され、輪島塗の器も西欧で人気になるとまた中国から大量に輸出されているという現状を何かのテレビ番組でみる度残念な気持ちになります。日本人がもっと自分たちの文化に対しての意識を変えることが地方創生の第一歩なのではないかと思